

外国語を母語とする日本語学習者の報告遂行能力に関する研究

— 日本語母語話者の問題点から考える —

坂 口 昌 子
中 西 久 実 子
由 井 紀 久 子

〈Summary〉

The purpose of this article is to investigate differences in reporting between Japanese native speakers (NS) and Japanese non-native speakers (NNS).

We made investigate into the recorded data of meeting contents by NNS. The analysis revealed a difference between the reporting skill used by NS and NNS.

NNS could abstract the various facts and speak structurally. And NNS can make a distinction of the fact from their opinions that they reported their opinion as a fact. However, they have a problem about interpersonal communication skill. They could not understand the native speaker's vague complaints express.

1. は じ め に

この研究は、日本語母語話者の日本語対面コミュニケーション力を向上させるための学内共同研究として始まったものである。成人の日本語能力にかかわる研究はまださほど行われていないが、昨今の日本語力低下がさかんにとりざたされる状況では、日本語母語話者の現状を確認し、社会人として必要とされる日本語力をはかる評価基準を作ることも必要となるだろう。

本論はその前段階として、日本語を母語としない学習者の報告行為と日本語を母語とする大学生の報告行為にどのような違いがあるのかを調査したものである。

中西他(2011)では、日本語母語話者(以下NSとする)の報告行為に焦点を絞った調査をおこない、NS間でも日本語の運用能力に差がみられることを明らかにした。そこで使用したのは、日本語を母語とする大学生、大学院生を対象にした報告場面の録画・文字化データである。データは前半の話し合い(30分)と、後半の報告(1人5分程度)の二部から構成されており、後半の報告部分を調査対象とした。

本論では同様の調査を日本語学習者(以下NNSとする)に対して行い、NS¹⁾との報告遂行能力に違いがあることについて述べる。

NSが持つ問題点については中西他(2011)で次のように述べられている。

1. 事実と報告が不整合である。
2. 報告内容を構造化し、順序立てて報告することができない。

3. 自己内コミュニケーションの言語化（独話）を行う。

本論では、これらのNSの持つ問題点と、NNSの報告行為を比較した結果、NSとNNSの問題点は異なり、NNSの場合、日本語能力以外では、社会言語的能力に関わるストラテジーに問題があることがわかった。

本論では、まず、4章で上記の1~3の問題点に対して、NNSがどのような状況なのかをNSのデータと比較しながら明らかにする。次に5章でNNSが持っている独自の問題点について述べる。

2. よい報告行為とは

山梨（1986）は、発話行為について報告型、警告型、祝福型などの分類を行っているが、その中で報告行為について、次のように述べている。

報告、陳述型

i 命題：事態、事実等の記述

ii 準備：話し手にとって、聞き手が命題を知っているか否かは明らかではない

iii 誠実：話し手は命題を信じている。

iv 本質：話し手は聞き手に命題の情報提示を行う。(p.46 一部改)

そして、報告は、「議論」や「主張」と似てはいるが、議論や主張が「命題が真であることを聞き手に信じさせようと試みる」のに対し、報告は情報提示を行うものである点が異なると述べられている。情報提示を行うものであるがゆえに、事実を改編してはならない、自分の意見を押し付けてはいけないということが報告行為には必要であると考えられる。

次に、「話し手は聞き手が命題を知っているか否かは明らかではない」ということについてだが、これは、相手の予備知識を探りつつ話を進める必要もあるということも表している。そのため、聞き手に対して、話し手は今から何の話をするのかといった予告を与えながら話を進める必要がある。

それは開始部分だけではなく、談話全体の構成に関しても、先に全体を示してから部分について述べていくなど、相手につたわりやすくする工夫が必要である。そのため、話し手は、全体から部分へと話を進める、伝える内容について要点まとめる、聞き手との情報差を埋める工夫をするなどが必要となる。

最後に、双方向でのやりとりであるということが挙げられる。Brown and Yule（1983）では、言語の機能の中に transactional function（報告的機能）と interactional function（相互作用的機能）があることが述べられている（p.10-11）。本論で扱う「報告」とは、話し手からの報告を聞き手が聞くという一方向的なものではなく、話し手が聞き手に助言を求めたり、それに話し手が

答えたりという相互作用的な言語行動をとらなければならない場面である。そのため、この2つの機能のどちらをも併せ持つ言語行動と言えるだろう。そのため、社会言語的な能力が必要となる。これが、3つめの要素となるだろう。

以上、報告という言語行為が成功したというためには、少なくとも次の3つの点について適切である必要があるだろう。

- 1) 報告する内容を的確に、主観を交えず把握しているか。
- 2) 報告する内容をどう構成してわかりやすく伝えるか。
- 3) 報告する者と報告を受ける者との間でのやりとりの適切さを欠いていないか。

1) 2) については、報告書などの書き言葉や、一方向的に述べるプレゼンテーションなどでも同じことが言えるが、対面での口頭報告は、その場での話し手と聞き手の双方向的なコミュニケーションが必要であり、3)の重要性は高い。

3. 調査方法

本論で行った調査は、中西他(2011)でNSに対して行った調査と同様のものを、NNSに対して行ったものである。

まず、NNSが、違う母語話者同士で2人1組になり、日本語でパーティの準備について30分間、話し合った。ここはビデオ録画して記録を残した。その後、ひとりずつ決まったことを5分程度で教師に報告するというタスクを課した。ここは音声を録音した。決めなければならないことは、1)当日の内容(プログラム、どういう順番で何をするか)2)当日必要なもの、それを誰に頼むか、3)当日までに準備すること、その分担、である。タスクは紙面で示した。²⁾

NNSとして調査対象としたのは、大学1年次生から3年次生までの8人である。母語は、中国語を母語とする者が4名(中国語・韓国語のバイリンガルを1人含む)、韓国語を母語とする者が4名であった。同学年で顔見知りの中国語母語話者と韓国語母語話者が組になり、話し合いを行った後、1人ずつ報告を行った。

NNSの詳細なデータは以下のとおりである。

[表1] NNSの情報

番号	母語	滞日歴(年)	日本語に関わる資格等	特記事項	ペア
F1	中国語	4	日本語能力試験2級合格		A
F2	韓国語	2.7	特になし		A
F3	韓国語	0.7	日本語能力試験1級合格		B
F4	中国語・韓国語	2.3	日本語能力試験1級合格	朝鮮族	B
F5	韓国語	0.7	日本語能力試験1級合格		C
F6	中国語	2.1	特になし	配偶者が日本人	C
F7	韓国語	0.8	日本語能力試験1級合格		D
F8	中国語	2.2	日本留学試験270点		D

4. NS の問題点と NNS の報告の比較

NNS の場合、NS の談話に観察される 3 つの点については問題を感じなかった。比較しながら、詳しく見ていこう。

4. 1 事実と報告内容の整合性

NS には(1)のように、話し合っていない内容について返答を求められると、自分の意見を決定したこととして報告してしまうという問題が見られた。

(1) 当日までにやることを報告していたときに

NS: [かすかな声] ## [消え気味] 実行委員、我々2名では〈少し笑いながら〉(はい) 大変だったので (うん) 実行委員の募集を行います。³⁾

T: 実行委員の募集は、何でやりますか？。

NS: ポスター、とかを、考えていました。

T: 二人で決めた？。[↓]

NS: 決めていません、私のイメージですが。〈少し笑いながら〉 = [J4]

これに対して、NNS は(2)のように「これから意見を聞いて決める」や、(3)「まだ K さん (相談していた相手) には話していない」や、(4)「私にはわからない」などのように未決定事項であることや自分以外の人の意見であることを区別している。

(2) 参加費を取るのかと T が質問して

NNS: そういうところは (うん) まだ (うん) 決めてないから、みんなの (うん) 意見を聞きたいし (うん)。 [F1]

(3) 歌やゲームを誰に頼むのかという話題の中で

T: で、えっとー、その、歌を歌ってくれるとかいうのは、J さんとかですか 〈二人で笑い〉？。

NNS: そうですね (おーん)、実は司会者も (うん) J さん (あー) と (うん) 2 回生の S ? ? さんがすごく、こう 〈笑い〉、テンションも高く (うん) 常に、楽しく (〈笑い〉)、こう、やっていけん (うん) のかなっていうのがあって (うん)、ちょっと頼もうと。

T: あ、はいはい、わかりました。

NNS: でもゲームも (うん)、ま、これは、K さんと話してないんですけど (うん)、J さんに頼もうかな (うん) っていうのは一応 (んー)、暗黙 (おん) 的に 〈笑い〉。 [F2]

(4) 予算が足りるのかと T に質問されて

NNS: あ, あああ, そうですね (うーん) まだ, お金は考えてない <んですけど> {<} <笑いながら> [F4]

4. 2 報告の内容の抽象化・構造化

次に, 報告事項を構造化することに関してだが, NS には「何の話をはじめのか」という概要を十分に聞き手に与えられないまま談話を開始する被験者が 6 例中 4 例いたのとは異なり, NNS は 8 例全ての談話で予告部分がみられた。

次の(5)(6)の例は NS の報告開始部である。(5)は教師からうながされないと, 自分から用件を話し始めることができなかった。

(5) 報告開始部 「失礼します」のあと口ごもる

NS: どうしたらいいのかな… [一人言のように, 「な」はほとんど聞こえない] えーと… [紙をめくる音]。

T: 決まったことを…, 教 <えてください> {<}。

NS: えーとー [紙をめくる音] / 沈黙 1 秒 / 決まったこと (ふん) … [自問しているように], まず (ふん) / 少し 間 / 内容…。

T: 何‘なん’ <のお話でしょうか> {<}。

NS: えーと, 留学生の… (うん), ウェルカムパーティについての (うん) 企画ー / 沈黙 1 秒 / 案…を作ったので…。 [J6]

次の(6)の例は, 開始部分で口ごもっており「ウェルカムパーティを開くことについて報告したい」旨をはっきり伝えられないまま, 教師が何の話か理解する間をあけず, プログラムのことについて話してしまっている。

(6) 報告開始部 ノックしてドアを開けて

NNS: 失礼します。すみません [小さい声] あのー, 留学生のウェルカムパーティ…で, (はい) あのー, 話していたことー…で=。チェック ###, よろしいで <しょうか> {<}。っとー, まずー, そのと…当日のー / 2 秒間 / プログラム…の流れはー, ま, せ, 最初にせ [[せ] は小さい声] …先生の挨拶ー (ふんふんふん) #### [かなり小さい声] 先生にお願いしてもよろしいでしょうか。はい, あ, あ=。 [J3]

また, 次の(7)のように開始部分はスムーズでも, そのあと話す内容を順序立てて述べるのが不得手な状況がみてとれる。

(7) 報告開始部 ノックしてドアを開けて

NS: 失礼しまー〈す〉{〈}。 / 4秒 間 / [この間にTの前に移動] えーと、あのー 先生、あの、留学生…,, のえーと歓迎パーティを (あーあー) 企画したので (あーはい), えーとそれーについてちょっと、報告、(あ、はい) をしたいと思います。[文末の声が小さい]
えーと、 / 1.5秒 沈黙 / 留学生が、えーと、歓迎、お、交流パーティなんです、(はいはい) 私たちでえーとビラ… / 少しの沈黙 / えーと日本語学科等‘とう’にえーと配る(ふん) ビラをえーと作成しますので、(はい) えーと、それをー、えーと必修の授業で(あーはー) えーと〈お配りして〉{〈} 【】。 [J6]

一方、NNSの談話では概要を示してから、具体的な内容を順序立てて述べていくことができていた。(8)などは後半で授受動詞の使い方が文法的でなく、意味がとりにくいのだが、前半では、「お時間大丈夫ですか」と、教師の都合を聞いてから話し始めるということもできている。(9)(10)の例は、日本語としてはこなれたものではないが、それを補うように、用件が明確に伝わるような短い文で簡潔に述べられている。

(8) 報告開始部 ノックしてドアを開けて

NNS: 失礼しまーす。先生、今お時間大丈夫です〈か〉{〈} ?。

T: うん。

NNS: 先生、4月の(うん)29日、あの留学生の交流パーティが(うん)あるんですけど、(あ、はいはい)一応留学生会のPさんと話してもらって(うん)、一応、あの、もう1回先生と話してもらって、あのー、意見を聞かせていただきたいん〈ですけれども、よろしいですか〉{〈}。 [F1]

(9) 報告開始部 「失礼します」と言った後に

NNS: #####, わ、ウェルキヤ、ウェルカーパーティ(うん)、あれをあたしAさんと少し計画を立ててみたんですけど(うん)、先生に報告しに来たんです。 [F5]

(10) 報告開始部 「失礼します」と言った後に

NNS: ###一と(うん)、あ～、らい、らい、来年4月(うん)、えー、新入生たちのために(うん)、留学生パーティを(うん)お、お、おこらい、おくらうことに(うん)しました。(はい)だから、先生(うん)に、報告します。 [F8]

これは開始部分に限ったことではなく、全体的に自分が次に何を話すのかを聞き手に予測させながら進めている談話が多かった。このようなメタ言語的表現について、数量的にも今後詳しくデータを見ていく必要があると思われる。

(11) パーティの日付を伝えた後で

NNS: あ、ちょっとプログラムを、一つずつ言います。まずは (略) [F7]

(12) Tに報告しますと言った後で

NNS: えーっと、あー、パーティの流れは、さき、学校からの挨拶にして、えーそして
(略) [F8]

4. 3 聞き手を配慮したコミュニケーション

3つ目のNSの問題点は、自己内コミュニケーションを口に出し、独り言を言うという言語行動をとることである。はっきりとした独り言が3人の被験者の談話にみられた。

(13) 用意するものを報告しながら

NS: /沈黙 1秒/なんかあったっけー/沈黙 1.5秒/あと、名札…作成のときに/沈黙 1秒/ちょっと、あの一/少し間/ちょっと一、最初一 (略) [J2]

(14) 日本人への景品が同じでいいかとTに聞かれて

NS: いや、日本人は一/沈黙 2.5秒/そっか日本人も参加してるのか (〈笑い〉) 〈笑い〉はい。[J6]

高岸 (2012) などにより、若い世代の独り言が報告されているが、これはNSに特有なものである可能性が高いのではないだろうか。今後詳しく若い世代の独り言について調査していく必要があるが、今回の調査では、NNSの談話では1カ所、1例しか見られず、「緊張する」というつぶやきだけであった。

(15) 報告を始め、手順を説明しようとして

NNS: 例えば、あの順番は、あの一、まず、司会者 (うん)、えー、またいつも通りに日本語学科の、あの一、先生に (うん) なんか、新入生たちに、し [ため息] 緊張する [小さい声で]。[F1]

NSの談話に見られる独り言は、自問自答のようであり、対話者に積極的に投げかけられたものではない形式である。しかし、「口に出す」ということは対話者に「わかってほしい」という意思を示しているように思われる。それに対し、NNSは同じようなことを直接、対話者に質問という形で投げかけているのではないだろうかと考える。

(16) ゲームだけではなく歌もプログラムに入れると述べた後で

NNS: ただゲームだけすれば, ちょっとシンプルすぎるかなーと考え…先生はどう思い〈ますか?〉 {<}. [F1]

(17) 会費のことについて話している

NNS: たぶん, 一人ずついち, 千円ぐらいで, いけると思います。

T: 千円も払って来てくれるかな。

NNS: たぶん。[ささやくように] 高いですか?。[F8]

5. 日本語学習者の問題点

では, NNS に特有の問題点とはどのようなものであろうか。日本語力不足からコミュニケーションがスムーズにいかないことはある⁴⁾が, それは今回は扱わず, それ以外の特徴について考察していきたい。

本論では, 特徴を 2 点挙げたいと思う。2 点とも社会言語的能力に関わる問題であるが, 1 点目は, NNS が答えられないときにとる戦略が, 時によって対話者には突き放されたように, または無責任に感じることもあるということである。

2 点目は, NNS は対話者からの「(報告内容に) 賛成しかねる」という気持ちをこめた問いかけの意味をとらえ損ねることがあるということである。はっきりと疑義を示すのではなく, 不賛成の意味を疑問の形で伝えられたときには, その意味を理解するのに時間がかかった場面があった。

5. 1 回答回避の戦略

1 点目は, 自分に答えられない質問をされると NNS はすぐにその話題を回避するかのようにとれる言語行動を取ることが多いのではないかとということである。これは 3. 1 で扱った内容と重なるのだが, NS が事実になかったことまで答えようとするのに対し, NNS は「これから決める」「会長と相談する」といった言葉で, 私は語れないという表現をとる傾向がある。たしかに事実なのだが, 話し合いがそこまで及んでいなかったことに関しての謝罪の表明がないことや, 語彙の選択なども原因になって, その伝え方にはコミュニケーション上で齟齬を来してしまう場合もあるのではないだろうか。

次の(18)の例は, 「考えてないです」と笑いながら答えている。報告を受けている教員との人間関係にもよるが, 責任感がないのではと理解されてしまう可能性も否定できないだろう。

(18) 予算の問題はないかと T に尋ねられて

NNS: 予算の問題は、考えてない〈です〉 {<} [笑いながら] 予算の問題は、留学生の会長と相談。 [F7]

また、(19)の例は、相談相手の S さんが勝手に言っていることだから私は知らないと言っているようにもとれ、無責任な発言に感じられてしまう。

(19)

NNS: んー、そしてゲーム、を今年はゲームをなんか留学生会が主導してたんですけど (うん)、わたしは日本のゲームについてあまり詳しくないんで (うん)、S1 さんが、日本人はしりとり?? (〈笑い〉) ゲームとかが (うん) が、好きって言って (うん)、はい、それをー、も、一応留学生会と相談し合ってから (うん)、決める予定なんですけど (うん)、しりとりとか (うん)、クイズとか (うん)、を一応ゲームに (うん)、計画して (います) {<}。

T: 〈しりとり〉 {>} って順番に言うーのかな?。

NNS: それ知らない==

NNS: なんか S さんが (うん)、しりとりとかしたらおもしろくない? って (うん) 言ったから (うん)、たぶん留学生会で相談する時 (うん) S さんの (うんうん) 説明があるんじゃないかなって思ってます (うんうん)。 [F5]

ただ回答を避けているために、無責任だと感じさせるのではなく、謝罪表明と、フィラーの無が関わってくるのだらう。(4)の例のようにフィラーを有効に使ったり、さらに「すみません、うーん、それはわからないです」などという謝罪や、保留のフィラーを使ったりすれば、聞き手を突き放したような無責任さが感じられにくくなるのではないだろうか。この点に関しては、今後フォローアップインタビューなどを行って、NS がこのような言語行動をとった理由や、NNS から誤解される可能性があると考えなかったかという点などを調査する必要があるだろう。

5. 2 不賛成の意味のこもった問いかけ

2 点目は、対話者が疑問の形で「賛成しかねる」という意を示した時、NNS に不賛成の意図が理解されない場面があったということである。

(20)では T は、単調にしりとりをするだけでは盛り上がりには欠けるのではないかと考え、どのようなゲームに変えるつもりなのかと S に質問しているのだが、S は T の疑問に気づいていない。中国では大学生もしりとりをよくするということや、自分の子ども (F6 には幼い子どもがいる) が、よくしりとりをして楽しんでいるのを見ているという背景があった。

(20) 「しりとりをする」と聞いてTが質問している

T: <しりとりゲーム> {}|} どんな…。

NNS: はい, たぶん留学生たちあまりやらないことと思うん(うん)ですけど, (略)

T: #, 子どもはよくするけど(はい), こう, 大人になっても。

NNS: もう, しないんですか?。学生, 学生はまだするんじゃないですか?。

T: ふつうーだったらしないと思います。

NNS: あ, そうなんですか, もう <笑いながら>, あ, ## 大学生はもうしないんですか。[F6]

(21)の例は, 50人以上のパーティで椅子とりゲームをすると報告したNNSに「実行するのは難しいのでは」とやんわりと指摘したつもりが, NNSは気づかず, 具体的に説明しはじめています。また, (22)の例は, 一般の教員に挨拶を頼むのではなく, 役職のある教員に挨拶を頼むべきだという含みがなかなかNNSに通じなかった例である。これらの例でTはNNSにはっきりと尋ねざるを得なくなっていることがわかる。

(21) Tがプログラムの内容に疑義をはさんで

T: あと, いすとりゲームとか今まであんまりしたことがないんですけど 【[。]

NNS:]] あっ, そうですか。

T: うん, いすの数が・・・

S: 多くあったら(うん), なんか, 回るのが不便なので(うん), 10人ぐらい??(うん)で, 教室で持っていきのがいいと思う…。[F3]

(22) Sが「挨拶をTに頼む」と言ったことを受けて

T: あとは, そうですね, その, あ, あいさつをするんですか, わたしが?。

NNS: はい。

T: 学科長じゃなくて? [F4]

(22)と同様の談話がNSにもあるが, (23)のようにTの対応を敏感に感じ, 「いつもはどんな先生にお願いするのか?」と問いかけている。

(23)プログラムを説明しながら

NS: っとー, まずー, (中略)最初にせ [[せ]は小さい声] …先生の挨拶ー(ふんふんふん) ##### [かなり小さい声] 先生にお願いしてもよろしいでしょうか。はい, あ, あ=。

T: = <ああ,> {}|} 【[,,

NS:]] <いつも> {}|} だいたいっ 【[,,

NS:]] <どんな> {}|} 先生…にお願い… <す> {}|} 【[。

T:]] くま、) }| 順番…は一、学科長が
最初 (あ) にやっ (あーそだ) てー (略) [J2]

このことに関して、クレームを述べる時のストラテジーが母語によって異なる可能性がある。たとえば、李 (2006) では、日韓の「不満表明」に関して述べられているが、そこでは、「遠回しな不満表明」に関する日本語母語話者の使用率が、韓国語母語話者よりも有意に高いことが述べられている。(p. 59) このような社会言語的ストラテジーの違いによって、母語話者同士ならスムーズに疑義の意図が伝わるのに、異なる言語話者の場合伝わりにくいということも考えられよう。

6. ま と め

本稿では、NSの問題点からNNSの報告に関する談話を分析した。さらに、NNS固有の問題点についても考察してきた。その結果、NNSの報告の談話から、次のことがわかった。

1. NSには問題であった「事実と意見を区別する」ということはできる。
2. 談話構成能力として、聞き手に内容を予測させるために、先に概略を述べることはできる。また、順を追って構成された話し方はできる。
3. NSのように独り言を口に出すことはない。ただ、NSとのコミュニケーションで困難回避ととられる可能性がある言語行動をとる場面が見られた。また、質問者のやんわりとした不賛成の意図をくみとれないことがあった。

つまりNNSの方がNSよりも、2.で述べた1)主観を交えず把握しているか。という点と2)どう構成してわかりやすく伝えるか。という2点においてすぐれており、情報を伝える、報告するというストラテジーを身につけているといえる。ただ、NNSの場合、日本語能力以外では、3)のやり取りの適切さという点において、社会言語的能力に関わるストラテジーに問題があることがわかった。そのため、やりとりを交わす上での問題点がないわけではない。一方的に情報を伝えるだけではなく、相互のやりとりの上で報告を遂行していくための指導が必要であると思われる。

今後の課題としては、今回の調査では扱えなかった日本語のレベル別など、日本語力との関わりも考えていきたい。発音、ポーズ、文法的適切性などについても「伝わりやすさ」という観点から外すことができないはずだからである。さらに、母語によって報告のスタイルに違いがあるのかということについても、調査していきたいと考えている。

また、調査対象者が8名と少数であることから、本研究のデータだけで、学部留学生の傾向と一般化することは難しいとも考える。被験者を増やして調査することも今後考えていく必要があるだろう。

注

1) 中西他 (2011) で用いたデータは以下のとおりである。NSの被験者は6名, 3組である。

番号	性別	生年	グループ
J3	女	1979	A
J5	男	1983	A
J2	男	1992	B
J6	女	1989	B
J1	男	1989	C
J4	女	1989	C

各ペアの調査は前半の話し合い (30分) と, 後半の報告 (1人5分) から構成されている

2) タスクカード2枚を以下に示す。

タスクカード

タスク1 (以下のタスクを行ってください。質問は受け付けません。)

留学生の交流パーティ (4月の新年度のウエルカムパーティ) を企画してください。

白紙を渡すので, 決定事項を書きとめておいてください。

30分で以下の3点を決定してください。

終了後に紙を提出してください。

出席者: 留学生, 日本人学生, 先生

場 所: 971 (9号館7階ホール)

決めなければならないこと

- 1) 当日の内容 (プログラム, どういう順番で何をするか)
- 2) 当日必要なもの, それを誰に頼むか
- 3) 当日までに準備すること, その分担

タスク2

お疲れさまでした。それでは, 先ほど話し合った内容を, 先生に報告してください。部屋に先生が待機していますので, 部屋に入るところから初めて, 決まった内容を報告してください。先生はその情報を元に, 他の先生にも連絡を回すので, 先生方に伝えておくべきことがあれば, 必ず伝えてください。

報告は紙を見ながらでも構いません。一人ずつ行います。

- 3) 転写記号には BTSJ (2007 年改訂) を用いる。発話番号などは紙幅の都合で省略する。談話終わりの [] に J とあるのは NS, F とあるのは NNS である。その後ろの数字は発話者の番号である。T は報告を聞いている教師の発話である。
- 4) 例えば次のようなものがみられた。
- (1) NNS: えー, 3 年生, 4 年生の女性も, あー, んー, 教室の前に (うん) 迎えに, えー, することも 3 年生 4 年生の女の子です。
- T: <1 年生> {< } を迎えに行くの?
- NNS: うん, そう, 新入生を迎えに行くこと。
- T: えっ (##), 今日来てねって言うんですか?。
- NNS: あ, いいえ, きょう, あー, あー, 教室の外で (うん), 外で, あー, 案内する人。
- T: あー, あの, 会場の前で (あー, はい), こ, こっちよって (はいはい), いらっしゃいませって (はいはい) やるんですか。[F8]

付記

本研究は, 2011 年~2012 年に京都外国語大学学内共同研究助成を受けて行われました。

本論は, 2012 年 9 月 1 日・2 日に行われた社会言語学会第 30 回大会 (東北大学) にて口頭発表したものを基にしています。会場でご指導いただいた先生方にお礼申し上げます。

また, データ収集に協力してくださった学部留学生のみなさん, データの文字化に携わってくださった堀才穂氏, 小西達也氏, 三好あかね氏, スイラダー・ブンサム氏に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

参考文献

- 石黒圭 (2010) 『スッキリ伝わるビジネス文書 一読必解 21 のルール』 光文社
- 李善姬 (2006) 「日韓の『不満表明』に関する一考察 — 日本人学生と韓国人学生の比較を通して —」『社会言語科学』 第 8 巻第 2 号 pp. 53-64
- 宇佐美まゆみ (2013) 「会話データの作成・分析: 「総合的会話分析」と「基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System for Japanese: BTSJ)」 (特集ことば研究の道具 2013) — データベース作成・分析のための道具」『日本語学』 32-14, pp. 132-147, 明治書院
- 下瀬川慧子 (1999) 「『日本語話し方技能シラバス チェックリスト』 試案」『東海大学紀要』 19 pp. 1-15
- 高岸美代子 (2012) 「ケータイメール世代のあいづち使用 — 女子高校生の自由会話から —」『社会言語学会 第 29 回大会発表論文集』 pp. 76-79
- 中西久実子・坂口昌子・由井紀久子・土岐哲 (2011) 「報告行為の日本語プロフィエーションとは — 母語話者の報告遂行能力調査 —」『2011 世界日本語教育研究大会 (ICJLE) (天津外国語大学) 配布資料』
- 山梨正明 (1986) 『新英文法選書 第 12 巻 発話行為』 大修館書店
- Brown, Gillian. and Yule, George. 1983, *Teaching the Spoken Language: An approach based on the analysis of conversational English*. Cambridge University press.

